

製造業、非製造業とも景況は大幅に悪化

10月の情報連絡員報告によると、製造業、非製造業とも、対前年度の景況は大幅に悪化しており、製造業においてはDI値がマイナス85を超えた。売上高が低下したことに加え、原材料価格の一部が下がったことで、過去の高騰分の転価が進んでいないにもかかわらず、販売価格の値下げ圧力がかかる等、悪化要因が重なっている。また、資金繰りが逼迫しているとの声もよせられている。
【製造業64人、非製造業86人 計150人の集計】

各項目のDIの動き（前年同月比）

	全 体	製造業	非製造業
売上高	⊖	⊖	⊖
在庫数量	⊖	⊕	⊖
販売価格	⊖	⊖	⊖
取引条件	⊖	⊖	⊖
収益状況	⊖	⊖	⊖
資金繰り	⊖	⊖	⊖
設備操業度	⊖	⊖	—
雇用人員	⊖	⊖	⊖
業界の景況	⊖	⊖	⊖

😊 …増加、上昇、好転
 😐 …不変
 ⊖ …減少、低下、悪化

✓ 行政庁・中央会に対する主な要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
食料品	麺類製造業	小麦価格改定の度の麺価格改定は難しい。小麦価格の改定の回数を減らしてほしい。
鉄鋼・金属	缶製造業	セーフティネット保証制度について業種指定要件や経営緊急融資の融資要件のひとつである「過去3ヶ月間の売上が対前年同月比で減少している」という規定は問題がある。当業界は平成15年から鋼材価格が上昇していたが今年に入り漸く価格転嫁が進んだ。このため売上は前年比ではプラスとなるが、以前の負担の積み残しがあり経営は極めて厳しい。これは他の業界においても国内企業物価指数と消費者物価指数に開きがあることから同様の状況にあると思われる。企業の実態を踏まえた制度づくりをお願いしたい。
	鍍金加工業	年末を控えて、金融、受注環境改善等の対策が早急に必要である。
繊維・同製品	帆布製品製造業	政府は中小零細企業への経済対策を打ち出したが、中小零細企業は疲弊しきっており、緊急事態として早急を実施しない限り、年内に多くの企業が破綻するのではないか。早期に対策を決定してほしい。
	帽子製造業	銀行の貸し渋り、貸し剥がしが組合員の間でささやかれている。対策をお願いしたい。
小売業	青果小売業	輸入野菜、特に中国産に関しては全く信用がない。輸入野菜に依存せねばならない現状を踏まえ、消費者が輸入野菜を安心して食べることができるようなキャンペーンを実施してもらいたい。
	鮮魚小売業	消費税の増税には反対。食品関係に特例を。
	酒類小売業	どこでも、いつでも、誰でもたやすく酒類が手にはいるのはいかなものか。販売から消費までの飲酒環境がこれ以上悪化しないことを望む。
	二輪小売業	原付一種の低迷は二段階右折、時速30kmの速度制限、パワー不足などに加え、駐車違反取り締まり強化が原因と思われる。原付一種はもっとも省エネ、省スペース、省資源の乗り物であり、今後、最高速度の規制は撤廃すべきである。
サービス業	自動車整備業	低年式車の増加に対する対応をお願いしたい。

平成20年
10月

業 界 の 声

製 造 業		
集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
食 料 品	麺類製造業	小麦価格高騰分の転嫁が十分にできず、利益が低下している。11月に小麦粉の再値上げがあり景況は益々厳しくなることが予想される。
	製粉業	連続4期目となる小麦価格の改定に、各社、制度の説明をしながら全力を挙げて価格改定の浸透に勤めているが、きびしい状況にある。今後、ルールの見直しも検討する必要がある。
	中華麺製造業	他県の大手・準大手の同業者と競争になっている。
繊維・同製品	帆布製品製造業	売上高は前年対比で大幅に減少。今月、都内大手のインテリア製品問屋が倒産。業界に大きな影響をおよぼすと思われる。
	洋服製造業	完全に市況は悪化している。大半の企業は受注がないか、あっても昨年の半分程度。
	ニット製品製造業	販売数が落ち込む中、価格の転嫁もできず業界全体が疲弊している。
	ネクタイ製造業	経済産業省にクールビズの奨励を改める旨、陳情した。売上は6月以降、悪化状態が続いている。
木材・木製品	建具製造業	需要低調で推移している。年末にかけてさらに厳しさが増すと見る向きが多い。マンションの着工数の激減は続き、建築関連の見通しが立たず、少ないパイをめぐる受注競争が続いている。
紙・紙加工品	紙製品製造業	原油価格が反転するも、既に、原紙・ポリ製品等、材料価格が値上げされておりメーカーの収益性は低下する一方である。また、資金繰りについても悪化している。
	包装材料製造業	段ボール原紙の値上げがメーカー全社より通告されたが、価格の転嫁ができず苦慮している。
印 刷	印 刷 業	組合で実施している売上動向調査によると7～8月実績で対前年比93.8%と減少。10～12月の3ヶ月予測も91.7%と大変厳しい見通しである。
化学ゴム	塗料製造業	8月の大幅な落ち込みほどではないが売上は低調。原材料価格が原油価格に合わせて低下しないため、相変わらず収益を圧迫している。
	タイヤ製造業	値上げしたことで買い控えに拍車がかかっている。売上は廉売品に集中している。
	プラスチック製品製造業	株安・円高の影響で受注が激減した9月よりやや持ち直したが、力強さが感じられない。
窯業・土石製品	生コンクリート製造業	都内上半期の出荷状況は対前年比88.5%であり、特に23区内は79%で大幅な減少。原材料費・運賃の高騰に対し、販売価格は契約時の価格（1～2年前）である。このギャップにより赤字に追い込まれている。
鉄鋼・金属	電線製造業	10月の需要動向は通信用、電力用、電気機械用、自動車用、建設用電線と全てにおいて需要の減退が見られる。
	金属熱処理業	引合いの落ち込みは益々厳しくなっている。ユーザーから年末年始の生産予定の説明があるが、それ以降については情報がなく先行きについての不安感が漂っている。又、業界内の競争が激化し、価格面からの収益圧迫がいずれ来るとされる。
	鋳物製造業	实体经济の悪化にともない、受注量が激減した業種が目立っている。（自動車関連、輸出関連）
	鍍金加工業	受注の大幅減少による倒産が発生。守勢も限界に達している。
	建築金物製造業	軽金属素材の異常な高値は収まりつつあるが、製品が売れずきびしい状況が続いている。
	ダイカスト製品製造業	世界的な景気の減速、円高の影響などで、自動車関連を始め、全てのユーザー向け商品の売上げが減少。
電気機器	配電盤製造業	当面の受注は確保できているが、来年の見通しは不明。原材料の価格は下がってきているが、価格引き下げの要請が出てくるのが予想され、収益面の影響も心配。当面の資金繰りは問題ない。
一般機械	写真製版機材製造業	出版及び広告、一般印刷物等全体の状況が悪化しており売上は低下。
その他の製造業	スポーツ用品製造業	北京オリンピックの報道は消え始めてきたが、スポーツの秋を迎え、多くのイベントが開催され、市場では需要拡大を期待している。「スポーツマーケティング基礎調査」によるとスポーツ関連市場の内、観戦が約17%、用品購入が約33%、施設利用が約50%との結果だった。メーカーの課題は用品購入を50%まで伸ばすことである。
	ガス圧接業	建築着工数が減少して稼働率は70%を割り込んでいる。原材料の値上げが企業利益を圧迫している。業界から技術者が離れつつある。

平成20年
10月

業 界 の 声

非 製 造 業		
集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
卸 売 業	玩具卸売業	銀行の貸し渋り、貸し剥がしによる倒産が我が業界にも発生した。我が業界は年末需要が大きくなウエイト占めるためこの時期の資金繰りの悪化傾向は座視できない。
	理容用品卸売業	長引く理容市場低迷のあおりで、組合員の減収、減益が続いている。閉塞感を打開するため、来年、組合主催でイベントを開催することを検討中。資金調達が問題。
	化粧品卸売業	組合執行部でもある企業が売上減少により会社整理となり波紋が生じている。景況は8、9、10月で激変したと感じる組合員も多い。
	電線卸売業	10月27日に41万円/トンを付けた銅建値は29日に戻して48万円になった。市況の悪さは相変わらずで多量の在庫を抱える企業は年末を控えきびしい状況にある。
	紙卸売業	メーカーの値上げと景気後退が重なり、高級紙は20%ダウンした。燃料、原材料の価格低下がどのように波及するか注視している。
	セメント建材卸売業	10月の共同購買事業の実績は対前年同月比、145.3%。大規模案件の実績により前年を上回った。組合員の会社整理、解散がそれぞれ発生した。
	木材卸売業	住宅向けを含め需要が弱く価格は低下。先行きにも明るい材料は見込めない。
	食品卸売業	一連の食品の安全問題に続き、事故米の転売問題、メラミン混入問題が発生したため、食品への信頼がさらに下がった。
小 売 業	宝飾品小売業	販売個数、単価とも落ち込んでいる。組合は組合員の収益率確保のためメーカー、商社との交渉に取り組んでいるが、メーカー、商社とも状況は厳しく交渉は困難。
	自動二輪小売業	海外では4輪自動車から125CCクラスの2輪車に乗り換えるケースが増えていると聞くが、国内でも原付二種が通勤、通学の用途で伸びている。反面、原付一種が低迷。
	青果小売業	不況下で消費者は価格に非常に敏感。必要なものを必要なだけ購入する傾向にある。
	眼鏡小売業	9月以降、売上は減少傾向にある。メガネ一式の単価は10%超以上の下げ幅であるにもかかわらず、売上数量は伸びていない。収益状況が悪化している。
	鶏卵小売業	業務用の売上が減少している。
	文具小売業	売上は低迷。誇りを抱き事業を承継してきた組合員に悲観と閉塞感が広がっている。
	酒類小売業	酒類の取り扱い店舗が過剰に増加している。
	化粧品小売業	投資しても回収できないほど環境は悪化している。組合員の中の格差も大きくなっている。
	電器製品小売業	デジタル機器の需要は強いが、相変わらず単価は低く売上高が上がらない。白物・エアコン等の需要も平年並みとなり、全体の売上高は前年比で多少ダウンして終了。デジタル機器需要が沈静化を見据え、オール電化へ取組む動きが見られる。
	中古自動車小売業	クレジット（オートローン）の取扱を見る限り、10月期は対前年比で金額は30.4%、件数で32.5%で中古車の販売状況は相当悪化している。
	衣料品小売業	金融不安や株価急落の影響で消費者の節約志向が進行し、売上額が落ちている。
	家具小売業	今夏以降の業況の悪化が、さらに日を追って厳しくなっている。
木材小売業	消費意欲の減退が業界にも波及し売上が伸びない。リフォーム物件も減っているようにも思われる。また、円高ではあるが今後の木材集荷が不安定になることが懸念され、相場的にも読めない状況に陥っている。	

商店街	目黒	卸売価格に上昇している品目もあるが、低下した品も出て来た。資金繰りは悪化している。
	銀座	9月より若干売上が上昇している感がある。ただし、人出の割に売上が少ない。
	秋葉原	円高に振れ外国人客の購入が極端に減少。外国人客の敏感さには驚く。
サービス業	飲食業	客の減少が著しく、組合員の廃業が相次いでいる。
	廃棄物処理業	一般廃棄物処理については不況の影響はまだ出ていない。しかし廃棄物の量は今後減っていくものと思われる。産業廃棄物処理については古紙、金属屑の市況が暴落しており痛手を受けている。
	複写業	建設・土木・公共事業関連の仕事が極端に減少の傾向にある。
運送業	クリーニング業	全国のクリーニング業者が20年連続で減少している。現在、秋の繁忙期であるが、業者数が減ったにもかかわらず、家庭洗濯が一般化し、売上増は期待できない。
	貨物自動車運送業	運賃単価は燃料費高騰への対応としてやや、上昇傾向にあるが、軽油価格の下落で早くも運賃引き下げが懸念されている。燃料サーチャージ制度は効果がなかった。また、国内景気の落ち込みから荷動きが落ちており売上は減少傾向にある。組合員間に格差が出ており、減車や廃業する企業がある一方、規模拡大を図っている企業もある。
	港湾運送業	各社、通期の業績予想を下方修正。急激な円高・景気後退で輸送量が減少。売上高は増加しているが営業原価（石油高等）が増え利益は減少している。